

産学官連携・共同研究の施設整備事業

# 弘大が採択 研究力向上

## 次の強化事業採択に弾み

弘前大学が、文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官

連携・共同研究の施設整備事業」に採択された。21日付で、全国30の国公私立大学の一つに選ばれた。今後国が公募する、最長10年をめどに年間約5億円の支援が受けられる「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」の前段階の事業に当たり、採択を目指す弘前大にとって弾みとなる。

【関連記事2面】

施設整備事業では、特色ある研究大学の産学官共同研究に必要な施設整備につ

いて、1件当たり最大20億円の支援を受けられる。弘前大はCOI-NEXT（COIネクスト）研究拠点を核とした「健康科学・Wellbeing研

究」の推進により研究力向上させ、「産学官金民の連携プラットフォームを基軸としたヘルスケア産業・研究のイノベーションハブ」を目指しており、整備費の全額支援を受けて、本町キャンパス内に4階建て

の推進拠点「データヘルス社会実装研究センター」を整備する。岩木健診で集めた健康ビッグデータのさらなる活用で、企業連携や大学間連携などを進める方針。

今年度、設計を始め、来年度中の完成を見込む。

文科省がハード面の支援に加えてソフト面として今年5月以降に「国際卓越研究大学」に続く「地域中核

・特色ある研究大学強化促進事業」の公募を予定していることから、COIネクストの健康拠点づくりを核にしつつ、全学的な強みを促進事業に盛り込んで申請・採択を目指す。

25日の定例会見で施設整備事業採択を公表した福田眞作学長は「採択は非常にうれしい。次の強化促進事業が必ず採択に至るとは限らないが、有力大学の一つにクローズアップされたのでは。順調なスタートを切れた」と話した。

（西尾瑛）